

大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進 (26)



～ 幸せをきずく「自己決定」の力 ～

石垣市教育委員会 学校教育課長 前三盛 敦

今、社会は技術革新のスピードが速く、経済活動がどんどん大きく変わっていく時代に突入しています。こういった時代に生きていくために最も必要な力は、「自ら考え、自ら判断し、自ら行動する力」になります。新しい「学習指導要領」には、『学校で学んだことが、子どもたちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会がどんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を共に創っていきたい』という願いが込められています。つまり、「自ら考え、自ら判断し、自ら行動する力」を身につけることが、自らの幸せを獲得する力であり、教育において最も育成すべき力となっています。

さて、「保護者の皆さん、今幸せですか？」お子様はどうでしょうか。また、これからも幸せでいられるでしょうか。国連が発表した「世界幸福度ランキング」2021年版では、フィンランドが4年連続で1位、2位にデンマーク、3位はスイスとなっており、日本はなんと56位になります。日本は経済的に豊かな国なのに、どうしてこんなにも幸福度のランキングが低いのでしょうか。

神戸大学社会システムイノベーションセンターの西村和雄特命教授と、同志社大学経済学研究科の八木匡教授は、日本国内の2万人に対するアンケート調査をもとに、所得や学歴が高いということより、「自己決定」の力が高いほうが、幸福感が高くなるということを明らかにしています。その見解として、「進路や様々な選択を自己決定できる人は、自らの判断で努力することで目的を達成する可能性が高くなり、成果に対しても責任と誇りを持ちやすくなることから、達成感や自尊心により幸福感が高まることにつながっている」と述べています。

この調査研究から、将来子どもを幸せにするためには、ただ勉強して学力をつけさせればよいというわけではなく、「自己決定」の力を育むことが大切であるということになります。では、「自己決定」の力とはどういうものでしょうか。

子どもの「自己決定」の力を育てるためには、やはり、子どもが自分で考えて、自分で判断し、物事を決める経験を重ねることが必要になります。その判断は、家庭でも学校でもたくさんあります。何時に起きるのか、何を食べたいか、何を着けて出かけるか、何を買いたいか、何をして遊ぶか、何の勉強をするのか等、毎日は「自己決定」の連続です。この小さな「自己決定」を積み重ねていけば、自分の考えを打ち立てられるようにもなり、ゆくゆくは大きな「自己決定」も可能になっていくのです。もし、その経験が不足したまま成長してしまったら、自分で考えられない、判断もできない、決めることもできない人になってしまうかもしれません。それでは、当然「自分の考え」も定まりませんし、大切な進路についても満足の行く決断を下すことなどできなくなってしまいます。

では、子どもに「自分で考え、自分で決められる子ども」にするために、親はどんなことをすべきでしょうか。「自己決定」の力をつけるには、まず、子どもに「どれがいい？」とか「どうしたいの？」と問いかけながら、自分で決めさせる機会を大切にすることです。その際、子どもの決断が親の考えと違う場合でも、口出しせず見守るようにします。

次に、子どもの遊びや宿題等にあまり手出しをしないことが大切です。親が「これはよくない、ああした方がいい」などとあれこれ口出しをしていたら、自分で考えたり工夫したりする力が培われなくなってしまいます。

それから、子どもの活動等に対して、「これはどうやったの？」や「どうして？」などと思いを促す声かけをすることが有効です。子どもは、自分で決めたことに対して問われることによって、そのプロセスや選択の理由を自分でより深く考えることができるので「自己決定」の力をさらに伸ばすことができます。

保護者の皆さん、以上のことを参考に幸せを獲得するためのお子様の毎日の小さな「自己決定」を大切にしてくださいね。石垣市教育委員会では、「勇気づけの教育」で、自己決定からスタートする自己肯定感を高めるサイクルを大切にしています。「勇気づけの教育」のリーフレットは、石垣市教育委員会ホームページにアップしていますのでご覧ください。